

第 1 1 回浦和区区民会議 議事録（確定版）

1 日 時：平成 18 年 7 月 20 日（木） 18:30～21:00

2 会 場：さいたま市民会館うらわ 101 会議室

3 出席者（敬称略）

団体推薦：新井幸芳（青少年育成さいたま市民会議）、大関豊壽（浦和歯科医師会）、小川晃（埼玉中央青年会議所）、小原茂（浦和区自治会）、柿塚一二三（浦和区民生・児童委員協議会）、坂本和哉（浦和区自治会連合会）、大工原潤（元市民懇話会）、大郷恒吉（北浦和 GINZA レッズ商店街）、中島昌男（さいたま市薬剤師会）、新田博利（浦和レッドダイヤモンドズ）、藤倉幸親（さいたま商工会議所）、吉野勝則（さいたま市 PTA 協議会浦和区連合会）

公募委員：樫田範子、岡野昭夫

コミュニティ会議委員：岡田唯文（コミュニティキャンパス浦和）、丸山繁子（さいたま市リサイクル女性会議・浦和）、吉岡基代（浦和区四星会）、渡辺修（中山道浦和宿二七の市実行委員会）

浦和区長：木内一好

事務局：小泉俊一（副区長）、新藤茂（区民生活部長）、礪部弘（健康福祉部長）、野村宏（区民生活部コミュニティ課長）、日野徹（同課長補佐）、金子秀行（同主幹）、大嶋幸子、小宮慶太（同主任）、池田麻美子、竹村真（同主事）

運営補助：福田律子（システム科学コンサルタンツ株）

4 次第

1 開会

2 報告事項

(1)三位一体の改革について

3 議事

(1)コミュニティ会議について

(2)各部会からの報告について

(3)平成 17 年度区まちづくり推進事業費決算説明

(4)その他

4 閉会

5 内容

- ・議事に先だち、財政課より「指定都市市長会緊急アピール」(指定都市市長会)に基づき、国に対し、三位一体改革の推進と大都市の行財政制度の改善を求める意見についての趣旨説明があった。

議事概要

(1) コミュニティ会議について

1) 新規コミュニティ会議の認定について

新たに、「岸町小学校地区サタデーサポートを推進する会」の認定申請およびこの団体が実施する「子どもの居場所づくり事業」の補助申請について、団体の説明ののち、運営部会での検討内容の報告、質疑応答があった。

(団体からの説明)

昨年2月から小学生の「居場所づくり」として、岸町小学校のご理解、ご協力をいただき、学校施設を借りて、ゲームや工作などを楽しみながら子ども達の土曜日の生活を支援する活動を行ってきた。子どもはもとより、保護者の皆さんにも好評を得て、一定の成果をあげてきたところであるが、反面、運営スタッフ、指導者が活動しやすくなる環境づくりが必要になったことから、このたび、「岸町小学校地区サタデーサポートを推進する会」を立ち上げることにした。そのための事業費10万円のうちの7万円を申請するものである。

(運営部会長報告および意見交換)

部会長：この事業に対しては、「全区的に広げたい、意義のある事業で、先駆者として他校での取り組みを指導していただければと思う」大変だと思うがすばらしい活動なので頑張っていて欲しい」という激励や、「活動中だけでなく、行き帰りも対象となる保険に入るほうが安心だし、そのためには会員制をとるとよい」というアドバイスがあった。部会としては活動の意義も高く、異論なしとした。

委員：どれくらいの方が参加しているのか。また、学校の協力は得られるのか。(東)

団体：毎回100人位、その内子どもが6割弱、4割強は親御さんが参加してくれている。意外と両親の参加が多いと実感している。また、体育館や校舎のパソコン教室などを借りている関係で、先生方も何人か出てきてもらっている。やはり学校の協力がないと事業を行うのは難しい。

委員：この活動は、「北浦和ふれあいプレイランド」と同趣旨のものと思うが、北浦和ふれあいプレイランドは有料で、こちらは参加費無料という違いがある。この点は、今後の検討課題だと思う。

委員：高砂小学校の方でも同様の事業を実施しており、現在は保険料として数十円の少額ではあるが費用をもらっている。この程度であれば、保護者の負担感もなく、ご協力を頂いている。活動の意義は高いので、是非、がんばってほしい。

会長：そのほかにご意見は。では、部会と同様、区民会議としても異論なしとしたい。それでは、次に移る。

2) コミュニティ会議の事業計画の一括報告(運営部会長)

- ・昨年度は、事業計画の説明を全体会で団体が直接行っていたが、今年度からは、継続申請の事業計画については、運営部会で詳細に行われた検討状況を部会長が全体会に報告するかたちで進められることとなった。
- ・本年6月に申請のあった事業計画についての部会長報告は次のとおりである。

浦和区四星会：「文集 - 高齢者の主張 パート」の発行及び発表会の開催」

平成15年度に団体ができ、過去3回文集の発行、発表会をやってきて、地域での認知度も高まっているとのことであった。今年度も「高齢者の主張 パート」の発行と発表・交流会の開催を計画しておられ、また、文集の発表会は交流の場として非常に好評だそうである。この発表会に出席したことのある委員からも、「非常に熱心で、活発な議論のあるすばらしい交流会で、独自の活動へと発展していくと、なおよい」という意見があった。助成申請額は、4年目なので前年度の8割、32万円となっており、部会としては、交流会の発展などにも期待して、異論なしとした。

総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ北浦和ふれあいプレイランド：

「サマーふれあいプレイランド」

この団体は3回目の申請で、すでに皆さんも活動内容はよくご承知と思う。団体設立から4年目に入り、現在は会員制、会費制をとっておられるようだ。団体の運営は、会費収入ですべてまかなっておられるが、毎月600人ほどの児童・生徒を対象に活動しているため、用具の傷みもはげしく、不足していることから、用具を購入するためにということで補助金の申請があった。予算書を見ると、収入は約3万4千円で、これに対し、支出は備品購入29万、その他保険料、事務費などで合計約31万4千円。差額は28万円となっているが、補助申請は前年度の8割にあたる20万円としており、補助金の範囲で予算書にリストアップされている用具を選ぶという考えだそうである。また、将来的に補助金がなくなったさいの対応をどのように考えているかという質問に対しては、大人から多めに参加費をもらい、まかなっていくようにしたいとの回答があった。

部会としては、この団体の活動の自立性や意義を認めており、夏休みに実施する「サマーふれあいプレイランド」に限定せず、年間の活動全体での事業計画書にして、申請額を明記し、29万円全額を申請してみたらどうかという意見もあったが、今年度は、すでにこの形で申請があったことから、このとおり異論なしとした。

仲本地区コミュニティ会議：「浦和駅東口環境美化」「仲本地区コミュニティ運動会」

この団体からの申請は今年度で4回目である。東口環境美化は不法駐輪対策として始められたものだが、潤いのある景観づくりにも役立っているとの声もあるようだ。また、コミュニティ運動会は、地域の催しとしては長い歴史のあるもので、参加者は800～1000人という大規模なものである。予算書には東口環境美化関連でおよそ78万円、運動会で21万円、合計で106万円の申請となっているが、運動会の参加賞品の予算を前年の20万から10万円に減額するなどの努力をしている。

部会からは、パルコ完成後はどのように活動を進めるのかという質問があり、団体からは、「市民広場を会場に、パルコさんとも協力してなにかできないかと思っている」との回答が

あった。また、環境美化活動については、もっと行政とのタイアップが将来でてくるのではないか、また、パルコ商店街の協力も得られるのではないかという意見や、地域が長い間取り組んでいる活動で地域の財産でもあり、是非、継続してほしいという激励などもあり、部会としては、申請額は大きいけれども生きたものになると判断し、異論なしとした。

アシスト浦和 2 1 : 「第 3 回わくわく浦和いきいき祭り～健康って何?～」

この事業は、今年度で 3 回目の開催であり、内容的には、皆さんよくご存知だと思う。今年度は、岸町コミュニティセンターに会場を確保することができず、コルソを会場としている。事業内容も拡大して、浦和歯科医師会の協力を得た講座、保健センターの協力を得た測定コーナー、高齢者疑似体験、参加団体の紹介などが企画されている。参加団体の紹介では、コミュニティ会議の発表の場にもなるようにしたいとのことであった。

予算書を見ると、支出では会場費が 35 万円と最も大きく、そのほか、講師謝礼、印刷費など合計およそ 89 万円となっている。補助申請額は 76 万円であるが、チラシは自分たちでデザインして、自分たちでポスティングするなど、経費節減にも努めたとのことであった。

部会からは、公民館や図書館など公共施設にチラシを置かせてもらうのはどうかという意見があったが、別の委員からは、公民館に置いてあまり効果がないという指摘があった。また、自治会に頼んで回覧板で回していただくのはどうかという意見があり、坂本会長からは、各自治会まで運んでくれれば協力できるかもしれないとお話があった。また、自治会の掲示板の利用、区報に載せるなどについても意見があり、それぞれ、協力いただける方向にあるようであった。

会場確保に関連して、コミュニティセンターでは定例的に使用する団体が優先されるため、今回、アシスト浦和 2 1 が予約できなかったという事情があったが、委員からは、コミュニティ会議が実施するこのような活動においては、公共施設の会場が確保できるよう支援が必要だという意見が出された。

コミュニティ会議の事業も、この規模になると参加費だけでまかなうのは無理だし、多くの関係団体の協力を得て動員をしないと集客が進まないなど、いろいろ課題があるが、部会としては、なるべくお金をかけない工夫をしながら、是非、がんばってほしいということで、異論なしとした。

いきいき浦和区推進会議 : 「自治会ふれあいサイト構築事業」

この団体も平成 15 年に設立され、今回で 4 回目の申請である。今年度は、新しい事業として、自治会ふれあいサイトメンテナンス・緊急支援事業に取り組むそうで、自治会の担当者では対応できないトラブルが発生したときに、専門家を派遣する事業を行うことになっているそうだ。部会からは、大体のサイトは更新されているが、いくつかは情報が更新されていないホームページもあるようだという意見があり、団体からは、各自治会のホームページ担当者が交代する時期にあたるため、新しい担当者に作成指導をしている間は、更新作業がとまってしまうことがあるとの回答がありました。

申請額は 115 万円、今年度は 4 自治会が対象となるということで、部会としては、異論なしとした。

コミュニティキャンパス浦和

コミュニティキャンパス浦和は、今年度の浦和区の区政方針において「支援していく」と打ち出されたもので、17年度は5講座を実施、今年度は6講座を実施する計画となっている。新しく増えた講座は、子どもたちのための「チャレンジ 科学遊び」だが、昨年度から引き続き実施する講座についても、座学だけでなく、実習や校外学習を取り入れたり、初心者向けパソコン講座では、反復学習のためのコマ数を増やすなど、新しい工夫をしている。また、今年6月から、パソコン部会の部会長を中心に、ホームページを開設しています。

今後の課題としては、運営委員とサポート委員の強化や、コミュニティ会議や自治会、市民団体等とのネットワーク化などがあるとのことであった。

事業予算を見ると、事業費は197万円で、うち、179万円が区補助金、17万円が受講料収入となっている。

部会からは、平成17年度の実受講者数89人とのことで、拡大していく工夫が必要だが、広報はどのように行っているのかという質問があった。これに対して、団体からは、区報、公民館などを通じたPR、コミュニティキャンパス浦和の運営委員やサポート委員のつながりなどで広報につとめているが、今後は、コミュニティ会議を通してのお願いなども検討して、定員一杯になるよう努力したいとのことであり、部会としては異論なしとした。

もとにてサロン：「地域と世代間のコミュニティの醸成活動」

この事業も、今年で3年目となりますが、大変好評だそうだ。今年度は、新規事業として、小学生対象の「囲碁・将棋の夏休みイベント」が実施されるとのことであった。これまでの補助で活動に必要な道具などはそろってきたが、講師料、材料費等含めて支出25万円のうち、15万円を申請したいとのことである。

部会からは、この事業の実質的なお世話をしているメンバーは何人ぐらいかという質問があり、40名ぐらいで民生委員、自治会役員、老人会役員などが中心になっており、講師も2丁目の方が多いとの回答があった。部会からはそのほか、自治会の手づくり事業でお手本にもなるものなので、がんばってほしいとの激励もあり、部会としては異論なしとした。

さいたま市観光ボランティア・浦和ガイド会：「ガイド活動充実強化事業」

この団体は昨年度、コミュニティ会議の認定と事業補助を受けており、今年は2回目の申請である。事業内容としては、昨年度とほぼ同じだが、説明パネルなどガイド活動に必要なアイテムや、ガイドマップの作成に関連する印刷費、拡声器などで合わせて約44万6千円の事業費に対して、44万円を区からの補助金として申請している。

部会からは、「NHKで紹介されたり、公民館や日本語国際センターから協力依頼が来るなど、盛んに活動されているが、会員数はどの程度か」という質問があり、昨年度の立ち上げ期には18人であったが、現在は5人増えて、23人であるとのことであった。

部会としては、浦和区の魅力と歴史をより多くの人に知ってもらえる活動であり、今後とも活躍していただきたいとの期待をお伝えして、事業に異論なしとした。

NPO法人 たすけあい太陽：スキルアップ助成

現在の活動をさらに充実したものとするため、「がん診療の現場からみた、人が生き、死ん

でいくということ」をテーマに、市民会館うらわコンサート室で講演会を開催する経費として、6万4千円の助成となっている。部会では団体のスキルアップにつながるものであり、異論なしとした。将来的には、コミュニティ活動の助成ができればよいと思う。

(意見交換)

会 長：部会長からの部会での検討状況を含め報告をいただきたいが、運営部会で団体との質疑応答を行い、慎重に検討なされた結果であるので、区民会議としても同様の結論にしたいが、いかがか。では、区民会議としても異存なしとする。

(2) 各部会からの報告について

1) 企画部会からの報告

- ・7月12日の部会では、都市景観形成基本計画の策定状況について、都市計画課の景観担当からの説明を受けた。当日は5人の職員がみえ、計画策定のスケジュール、この基本計画と景観法が規定する景観計画との関係、そして、市民ボランティアによる違反広告物の撤去活動の新たな制度などについてお話を聞き、質疑応答を行った。質疑応答のなかでは、浦和区の景観資源として、都市的な施設や文化施設、見沼田圃などの自然が取り上げられているが、地域の人たちの活動による景観も把握したほうがよい、マンション問題の対策が必要、景観の良し悪しについての議論が必要などの意見を述べた。また、7月21日19時から「区民意見交換会」が開催されるので興味のある方は参加してほしいとのことであった。当日はワークショップ形式を進めたいとのことであり、可能であれば出席いただければと思う。
- ・区民会議では毎年視察を行っているが、今年度も秋に実施したいと考えており、8月中旬の部会で視察先を検討し、8月下旬の全体会で決定したいと思う。ついては、どのような目的で、どこに行くのがよいか、皆さんの意見を伺いたい。

(意見交換)

委 員：視察については、イメージがわきにくいので、企画部会に腹案があれば聞かせていただきたい。

部会長：企画部会でも、市内か、市外かといった意見や、レッズランドという意見はあった。具体的な意見は部会でも少なく、場所を特定するのが難しいならば、「景観づくりに関連した視察」など、テーマについての希望を聞かせていただければと思う。防犯・防災といった切り口も考えられる。

委 員：日帰りで考えるのでよいか。

事務局：日帰りであれば、だいたいどこでも大丈夫である。バスの借上げは手配してある。

委 員：川口市のサッポロビール工場跡地が再開発されているが、その現状を見るのも1つかと思う。

会 長：では、視察先や目的などについては、8月4日までに事務局に伝えていただきたい。それらを参考に企画部会で検討し、次回全体会で報告してもらいたい。

2) 運営部会からの報告

- ・前回の区民会議でも報告したが、医師会や歯科医師会、薬剤師会、JC、PTA 連合会など、公益団体・法人を「コミュニティ会議協力団体」と位置づけるような制度を創り、ともにまちづくりを担っていけるような体制を整備していきたいと考えている。コミュニティ会議の活動も活発化し、活動の輪も広がっていくと思う。今すぐといっても難しい問題もあり、とりあえずは区民会議に参加している団体のうち、趣旨に賛同して下さる団体で登録し、実績を積み重ねて制度を整えていくのも方法であると思う。今後とも、検討していきたい。
- ・区民まつり検討委員会の設置について、前回の区民会議では白紙に戻すとの事務局説明があったが、その後の部会では、二七の市を実施する地元の負担は大きい一方、これは常盤のまつりであると一部から言われ、協力が広がらない現状を打開するために、区民による区民のまつりがどのようにあるべきか考える時期が来ており、先送りしないほうがいいということになった。そこで、部会としては、区民会議内部で検討委員会をつくり考えていくのがよいと判断したが、皆さんの意見をうかがいたい。
- ・そのほか、これまでの部会では、浦和区コミュニティの広場に、一般市民も来場できるよう、開催場所の検討や交流の方法について検討していただきたいといった意見や、区民会議ホームページが他区で開設されているが、浦和区でも取り組んだらよいといった意見が出されている。

(意見交換)

会 長：区民まつり検討委員会の設置について提案があったが、いかがか。

部会長：まずは、検討委員会の準備会を区民会議正副会長と部会長でつくり、検討委員会の委員構成を討議してもらい、発足させたらどうか。

委 員：検討委員会の設置に賛成だ。二七の市もここまで大きくなると、「がんばれ、がんばれ」だけでは立ち行かない。実情を知り、どう協力していけばいいのか考える会になるとよいと思う。

委 員：私としては、検討委員会を設置してほしい。区民のためのまつりとして、多くの人からの意見を聞いてやってきた。区民会議からの提案を受けて、夜間にやってみたり、土日の2日間やってみたりもしたが、夜にやれば寒いといわれ、2日間やればそんなに暇はないと言われ、正直なところ、「どうしたらいいの」という思いがある。多くの地域の参加を得たいが、一方で、会場を分散させれば魅力も分散するし、経費もかさむようになる。どうするのがいいのか、多くの人々の知恵を集める必要があり、検討委員会を設置するのがよいと思っている。

会 長：区の考えはどうか。

区 長：区としても、まつりのあり方について、ある「線」を出していただけたら、協力をしやすくなると考えている。

会 長：では、正副会長と部会長で協議し、次回区民会議で報告する。

委 員：コミュニティ協力団体の提案があったが、賛成である。実現すればコミュニティ会議を強力にサポートできるし、「コミュニティ会議になると、このような協力団体のサポートが得られますよ」ということができ、コミュニティ会議設立の魅力にもなる。協

力団体への登録制度をつくることができないだろうか。

会 長：たしかに、それは理想だと思う。そのような仕組みの可能性について、部会で協議を重ね提案してほしい。

委 員：もし実現したら、さいたま NPO センターは協力したいと思う。

3) 広報部会からの報告

- ・広報部会からの報告は2点ある。1点目は区民会議だよりの件で、区の努力により予算180万円を予定することができ、2回発行の目途がたった。1回目は10月1日号の市報さいたまと併配する予定であり、10月・11月のあいだに活動を計画しているコミュニティ会議の紹介を主な内容とし、区民会議による市に対する提案なども掲載することにした。また、浦和ガイド会の協力を得て、浦和区の魅力のポイントを紹介するマップも掲載している。また、関連して「浦和区ひとくち知識」というコラムを設けて、今回は浦和レッズのエンブレムのデザインに埼玉師範学校の校舎が使われていることを紹介した。新区長の紹介記事も掲げている。
- ・コミュニティ広場のあり方については、広報部会でも検討している。会場については、予定しているふれあい館以外もあたってみたが賃料が高く、そのために出費するぐらいなら、コミュニティ会議の支援にあてるほうが有益であると考えて、ふれあい館にした経緯がある。また、コミュニティの広場を今後も安定的に開催し、発展させていくために、実行委員会を区民会議委員全員で構成することを提案したい。これは広報部会の総意である。従来は広報部会で実行委員会を引き受けていたが、今後、当部会は実行委員会の事務局として役割を果たしていきたい。
- ・なお、区民会議ホームページについての意見があったが、第1期に広報部会で詳細に検討し、開設および維持のための経費が何十万円にもなることから見送った。予算と体制の確保ができれば、開設したいと広報部会も考えている。

(意見交換)

委 員：「区民会議だよりに」、CCUのお宝探検隊も散策マップを作成しているので、掲載する上での検討材料にしていいただければと思う。

委 員：たしかにホームページを立ち上げるのは大変だが、まずは、区民会議だよりをPDFにして掲載するというのも方法の1つではないか。

会 長：ほかにご意見は。では、今のご意見も参考にしながら進めていっていただきたい。

(3) 平成17年度区まちづくり推進事業費決算説明

平成17年度区まちづくり推進事業費決算に基づき、次の説明があった。

- ・区民まちづくり事業全体としては、平成16年度と同額の107,630千円の予算であったが、そのうち約99%を執行した。コミュニティ課が所管する「まちづくり基本経費」と「まちづくり事業経費」については、約91%の執行となっており、このコストダウン分は、生活課所管の区民満足度アップ経費の補充に充てた。

(意見交換)

委員：99%の執行ということだが、執行されなかった予算 139 万円はどう取り扱われるのか。

会長：言ってみれば、市に戻されるというふうに理解していただければと思う。

(3) その他

事務局より、「文化の小径づくりマップ」作成について次の報告があった。

- ・区では今年度、まちづくり推進事業の一つとして、「文化の小径づくりマップ」を作成することとしている。この事業は、浦和区魅力あるまちづくり推進プランの掲載事業であり、今年度の区政方針にも掲げられている事業であるが、作成にあたっては、区民の皆様とともに進めていきたいと考えている。浦和区ガイド会をはじめ、歴史を研究なさっているコミュニティ会議にご協力をいただくとともに、推進プランのとりまとめ作業の中心となった企画部会の委員にも参加いただきたいと考え、先般の部会にはかったところ、大工原部会長、小原委員、樫田副部会長を推薦していただいた。8 月ぐらいから検討をはじめ、年度内にマップの作成を進めていくこととしており、今後の進捗状況については、区民会議でご報告したい。

次回開催予定

- ・次回全体会は、8 月 24 日（木曜日）午後 6 時半から市民会館うらわ 503 にて開催する。次回は、区民会議から市への提案に対する、担当所管からの回答を予定している。

以上